



# た ら ぎ ま ち 多良木町

- 特産品 葉たばこ、イ草、メロン、シイタケ、球磨焼酎ほか
- 環境 球磨盆地の東部に位置し、宮崎県と隣接。ほぼ中央を球磨川が流れ、幸野溝、百太郎溝の水路が広々とした水田を潤している。霧が多い。
- 産業 農林業が中心。
- 観光 青蓮寺阿彌陀堂、太田家住宅、王宮神社楼門ほか



「文久二年創業伝統の味」と球磨焼酎文蔵のラベルに書かれています。二四〇年ほど前でしょうか。実は私も七代目ぐらい、ということしか分らないんですよ。昔ながらの手作りでやっていますから、味のある焼酎ができるんですよ。」

●木下好弘さん(47才)



「農協青壮年部メロン部会の部長をやっています。球磨郡はメロンを作り始めて13年目ですが、プリンスメロンの生産量は全国の3分の1を占めとつです。農業は自然の中でいろんな発見があって楽しかいですね。それに街の人がお金で買えないものも、ここにはいっぱいありますよ。」

●吉川敏朗さん(38才)



「七月を中心に三万五千本のつぼうゆりを出荷しています。ゆりを作るようになって三年ですが、小さな苗を手で植えつけるのにおおごとしますね。うちの地区はうまくまとまっています。昨年は県の農業コンクールの組織部門で優勝、全国農林水産まつりでは九州農政局長賞をいただいたとですよ。」

●諏訪正弘さん(48才) 清美さん(40才)



「多良木高校出身の尾方さんは、多良木高校出身の集材加工施設にお勤めの尾方さんは、昨年3月にこの工場ができると聞き、東ハンサムホールへ。昨年3月にこの工場ができると聞き、東ハンサムホールへ。昨年3月にこの工場ができると聞き、東ハンサムホールへ。」

●尾方淳さん(21才)



「異業種交流の会『火曜クラブ』を作った5年目です。情報交換や研究会活動で自己研さんを。はかるとともに、夏のびっきゅん祭、10月の恵比須祭には会員22名が楽しんで参加しています。今年は『喝・活・勝』をテーマに、はりきっているところです。」

●瀬崎哲弘さん(36才)



今回取材のお世話役 多良木町 企画開発係長 源 国光さん

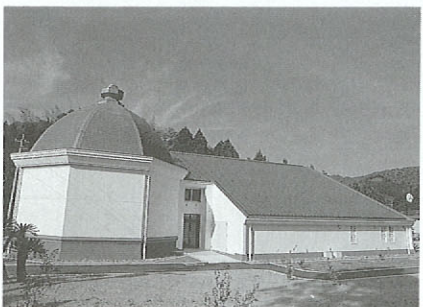


県下各地で頑張っているみなさんにスポットをあてるこのコーナー。今回は多くの遺物が出土し、球磨文化の発祥地と言われる多良木町の元気者たちをウォッチングしてみました。

# ウォッチング！元気凶鑑

「67年ぶりに昔の教え子たちと同窓会です。ね、懐しかったですよ。」と、嬉しそうな尾方さんは、元小学校の先生です。今は国や県指定の文化財が80もあるこの町の文化財保護委員長。文化財の講義をしたり、自宅では書道をお教えるという毎日。いくつになっても先生は現役でご活躍です。

●尾方二男さん(78才)



天草ロザリオ館

# 「町づくりのキーポイント」は、『文化開発』だと思いません。」

## 小松左京さん

「日本沈没」「復活の日」など、SF界の第一人者として活躍中の小松左京さん。天草ロザリオ館のオープンに際して来熊された小松さんに、インタビューしました。

「まず、天草の第一印象からお伺いしたいのですが……」

「天草下島は始めてなんですが、交通の便があまり良くないな。熊本空港から三時間というのはいやいな。」

「ずっと、天草に興味をお持ちだったのか。」

「ええ。天草は、宗教にしても異質なものを受け入れることができた特殊な地域だったでしょう。だから、たとえば、キリスト教社会やヨーロッパ文明との交際の拠点をここに作ることで……」

「リゾート基地構想でも脚光を浴びていますが……」

「そうですね。その為にも、景観を壊さないようサービスマンが特に必要になってきます。だめだだめだ。だけしや人はついてこないから。自然と開発がうまく調和するよう、情報を提供していくことが、これからの行政に求められることじゃないかな。」

「パラボラアンテナを上げさえすれば、パチカンとだつてつながらる時代です。パチカンの方も天草の名は知っていますから。天草は独自のジャンルに於いて、国際交流の拠点としての要素を十分に持っているんですよ。」

「天草は、今、一体となって町づくりを行っています。」

「ええ。歴史に調和できる町づくりを考える時期ですよ。一世代や二世代という枠を越えた、長期にわたる人間の営みの結果が、『歴史』だと思いませんか。だから、リゾート開発や交通網を充実させる計画に先行して、もう一度、自然と歴史を研究し、学び、探ることが大切です。それは未来のためにやるべきことだから。今こそ、島を上手に演出していくことが大事だと思うので。」